

聖書：第二サムエル記9章1～13節

説教：あなたに恵みを施す

1 イスラエルの政治情勢

イスラエルの王の座に就いたダビデは、すぐに多くの問題に向き合わなければなりませんでした。外に目を向けるなら、敵が国境を越えてきて財産が奪われ、国が荒らさ、人が殺されています。そのためにダビデは、東西南北あらゆるところに出掛け、敵を制圧し、次々と国境に守備隊を置きました。

内に目を向けるなら、そこには対立がありました。ダビデを王と認めようとしない人たちがいるのです。「イスラエルの王位を受け継ぐのはダビデではない。サウルの家の子だけである。」この箇所が登場するメフィボシェテは、サウル家の血筋を引くただひとりの生き残りです。メフィボシェテを利用して、ダビデを倒しサウル家をもう一度立て直そうする勢力があったらこう考えられます。ダビデにとって敵とも言えるメフィボシェテに対し、ダビデは何をしていったのか。そこから、神の救いとはどのようなものであるのかを考えていきます。

2 ヨナタンとの契約

1) 死を覚悟するヨナタン

1節を読みます。「ダビデが言った。「サウルの家の子で、まだ生き残っている者はいないか。私はヨナタンのために、その者に恵みを施したい。」

なぜ、ダビデがこのようなことを言いたのでしょうか。なにか政治的な理由があったのでしょうか。国境線が固められ、国が落ち着いてくると目は内側に向いてきます。ダビデ

に対する不満が吹き出してきます。問題が大きくなる前に、ここでサウル家に恩を売っておけば、何も言えなくなるそんな政治的な打算があったのか。

そういう動機がダビデになかったとは言いません。けれどもダビデは、サウルの家の子を捜す理由をはっきりと述べています。「私はヨナタンのために、その者に恵みを施したい。」

「ヨナタンのために」とはどういうことか。これが今日の箇所のポイントになりますので、確認しておきます。話は、まだダビデがサウルの下下として働いたときにまでさかのぼります。ヨナタンは父サウルがダビデを殺そうとしていることに気がつきます。すぐにヨナタンは親友であるダビデにこのことを告げ、早く逃げるようにとアドバイスします。ヨナタンはサウルの長男ですから王位継承権があります。でも、ヨナタンは、信仰によってダビデが次のイスラエルの王となることを確信しています。それはどのようにして実現するのか。一つしかありません。ヨナタンが生きているかぎり、ダビデは王となることはありません。ダビデが王となるということは、自分は死ぬ。そうすると覚悟しています。そこでヨナタンはダビデにこう言うのです。第一サムエル記20章14～16a節。「もし、私が生きながらえておれば、主の恵みを私に施してください。たとい、私が死ぬようなことがあっても、あなたの恵みをとこしえに私の家から断たないでください。主がダビデの敵を地の面からひとり残らず断ち滅ぼ

すときも。」こうしてヨナタンはダビデの家と契約を結んだ。」

ダビデが、「私はヨナタンのために、その者に恵みを施したい」

と言ったのは、ヨナタンと結んだ契約のことがあったからでした。

2) ヨナタンの子メフィボシエテ

この契約には二つの項目があります。一つ目は、ヨナタンがもし生き延びることができたなら、主の恵みを私に施してほしい。二つ目の項目は、もしヨナタンが死ぬことになったなら、あなたの恵みを私の家、すなわちサウルの家に施してほしい。ヨナタンは死にましたので、自動的にダビデは契約の二番目にある項目を実行することになります。では、サウルの家の者とはだれか。それがヨナタンの子であり、サウルの孫でもあるメフィボシエテです。

ヨナタンがサウルとともに戦場で倒れたとき、メフィボシエテはまだ五歳でした。イスラエルの指導者とその世継ぎが倒れました。この機に乗じて政権打倒を企てる者が現れました。日本の時代劇にもよく出て来るトリーですが、サウル家のお世継ぎを守らなければなりません。残念ながらサウルの息子で、王位継承権のあるイシュボシエテは暗殺されてしまいます。最後に残った世継ぎがメフィボシエテです。彼は敵の手から逃れ、何とか生き延びましたが、逃げるときにあまりに急いでいたために乳母がメフィボシエテを落としてしまいます。そのことが原因で両足が不自由となってしまいます。

そのメフィボシエテがダビデの前に呼ばれたときの様子が7節にあります。「恐れることはない。私は、あなたの父ヨナタンのた

めに、あなたに恵みを施したい。あなたの祖父サウルの地所を全部あなたに返そう。あなたはいつも私の食卓で食事をしてよい。」

ダビデは、恵みの具体的な内容として二つの申し出をしております。一つ目は、サウル家所有の土地をすべて返すので、その土地から収穫されたものはすべてサウル家のものとして自由にできる。それが一つ目。二つ目は、王の食卓でに連なって王とともに食事をする権利が与えられた。この二つです。

3 神の恵みが与えられる

1) 条件：契約のゆえに

私たちは普段なにげなく「恵み」ということばを使っております。でもよく考えてみると、かなりあいまいなままに使っていたかもしれせん。「恵み」とは何か。聖書からもう一度確認したいと思います。

三つのことを考えます。神の恵みが与えられる条件は何か。神の恵みは誰に与えられるのか。神の恵みは具体的にはどんな事を言うのか。

まず最初に、神の恵みが与えられる条件から見ます。このように言いますと、皆さんはちょっと緊張するのではないですか。私は恵みをいただく条件を満たしているのかどうか。そんな不安が襲ってきます。

安心してください。メフィボシエテはダビデを通して神の恵みに預かりましたが、いったいメフィボシエテは何をしたのですか。たとえばダビデを喜ばそうと一生懸命ダビデのために働きましたか。働こうと思っても、足が不自由だったのです。何もできない。何もしていないのに、あなたはヨナタンの子である、サウルの家の血筋の者である。ただそれだけで恵みに預かった。

なぜそれだけで恵みに預かれたのか。鍵はヨナタンです。ヨナタンがダビデと契約を結んでいたから。ダビデはその時何か条件をつけましたか。いいえ。条件なしです。ただサウルの家の者であると言うだけで、無条件で恵みを受ける権利が生じた。そこにメフィボシエテがいましたか。いません。そこにいなかったのに、何もしなくても、神の恵みを受けられる。不思議でしょうか。

神の恵みにあずかれるのは、神のために一生懸命働いた人。どこかでそう思い込んでいたかもしれませんが、そんなことは聖書に書いていない。二千年前、私たちが生まれるはるか前に、そこにいなかったのに、イエス・キリストが契約を結んでくださっていたのです。この方がいのちを捨て、血を流して書かれた契約書。それが十字架です。この十字架のもとに来る者はすべて、無条件で救いの恵みを受けることができる。聖書にそう書いてあるのです。

2) 誰が：足のなえた者が招かれる

そう言われても、多くの方が凝ります。自分は身勝手な人間だから、とても救われる資格がない。

これもメフィボシエテを見てください。彼は足が不自由でした。今で言えば障がい者です。その彼が救われます。何もできないどころか、むしろ人の手を借りなければ生きていけない、迷惑をかけている者。役立たずと言われる者。実はそのような者が神の食卓に招かれている。救われるのだと言っているのです。

もし皆さんが、私にはなにもない。いやそれどころか、あの人も返さなければならない負債がある。この人にひどい迷惑をかけて

しまった。私の人生は失敗だった。もしそう思っておられるなら、あなたは救いをいただくための立派な資格を持っていることになります。イエスは言いました。「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」(マルコ2章17節)

3) 恵みの内容

最後に恵みの内容を見ていきます。ダビデはメフィボシエテにすべての土地を全部あなたに返すと申し出ました。いま、原発事故によって故郷を追われてしまった人たちが沢山います。今も仮設住宅に住まなければならない人たちがいます。私たちは住みたい所に住んでいるかもしれませんが、霊的に言えばどうでしょうか。ここは自分のいるべき所ではない。私はこの世から追い出されてしまった者だ。どこかでそんな寂しさをかかえているのではないか。「あなたの土地に戻す。」神は、私たちが心から満足して安らぐことのできる場所に私たちを戻してください。それが恵みの内容の一つ目です。

恵みの内容の二つ目。ダビデはメフィボシエテを王の食卓に招きました。私たちは、神の食卓に招かれ、神と顔と顔を合わせて親しく食事ができる。そのことを意味します。それがどんなにうれしいことなのか、私たちにはまだぴんと来ないかもしれません。でも、私たちはこの方を十字架につけて殺したのです。その方が、すべての罪を忘れ、思い出すこともなく、ただ「よく来てくれた。さあ、一緒に食事をしましょう」と言ってくれる。神は手を開いて、招いてくださっているのだと教えます。

神の恵みは、誰ひとり例外なく私たちの上に注がれていることを覚えたいと思います。